

# 吉持製作所

「ヘラ絞り」だけを変わず続けてきました  
注文があれば何でも加工しますよ

物を作りたいと思われた時、ヘラ絞りという  
板金加工法があります。皿ロケットの先端、  
照明シェード、タンク等、実は身近な金属加工法です。

生野には「ヘラ絞り」の工場がたくさんあったんです。今では数えるほどですが、うちは先代から変わらずヘラ絞りだけをやっています。アルミを使った照明器具の反射板が中心でしたが、今は給食用の鍋、機械部品、紙漉き用の型など注文があれば何でも作りますよ。

金属といってもアルミ合金は硬くて加工しづらく、「ニオブ」という金属は0.2mmと薄く破けやすいなど特徴や性質もさまざま。金属の特性を理解し、ヘラを使い分け、ヘラを当てる角度や力加減を調整し、思いどおりに形を変えていくんですわ。

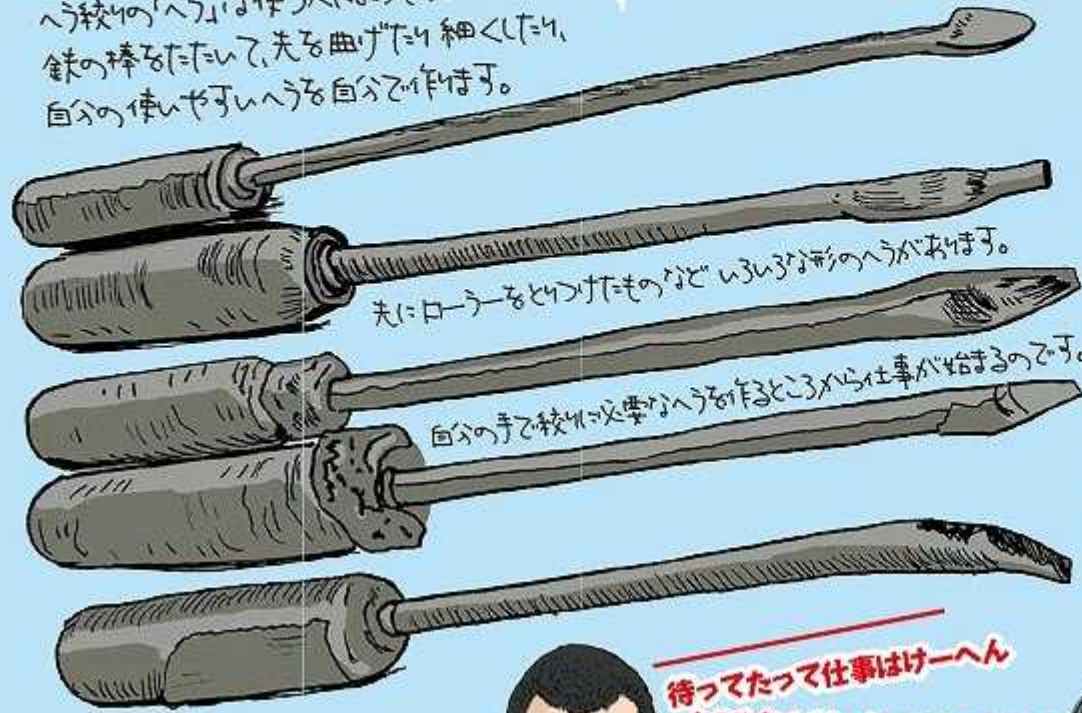
ヘラ絞りというものを一般の人にも知ってもらいたくて、体験会をやっています。これまで子どもから大人まで200人以上が参加してくれました。機械では味わえない、モノを作る楽しさを感じ、ヘラ絞りの技術を受け継いでいってほしいです。

社長 吉持 剛志さん

まずは自分の道具を  
作ることから始まります

自分が  
手がけるものは  
失敗したくない。

ヘラ絞りの「ヘラ」は使う人によってさまざま。  
鉄の棒を叩いて、先を曲げて細くして、  
自分の使いやすいヘラを自分で作ります。



先はローラーと叩くものなどいろいろな形のヘラがあります。

自分の手で絞りが必要なヘラを作るところから仕事が始まるのです。

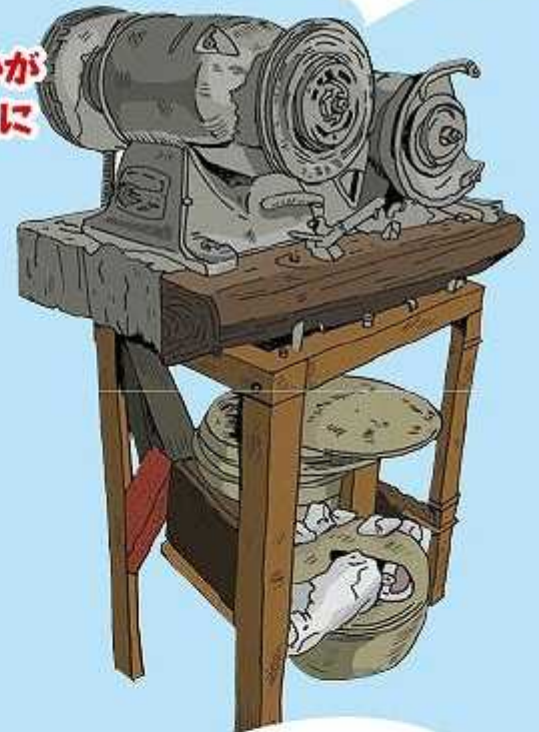
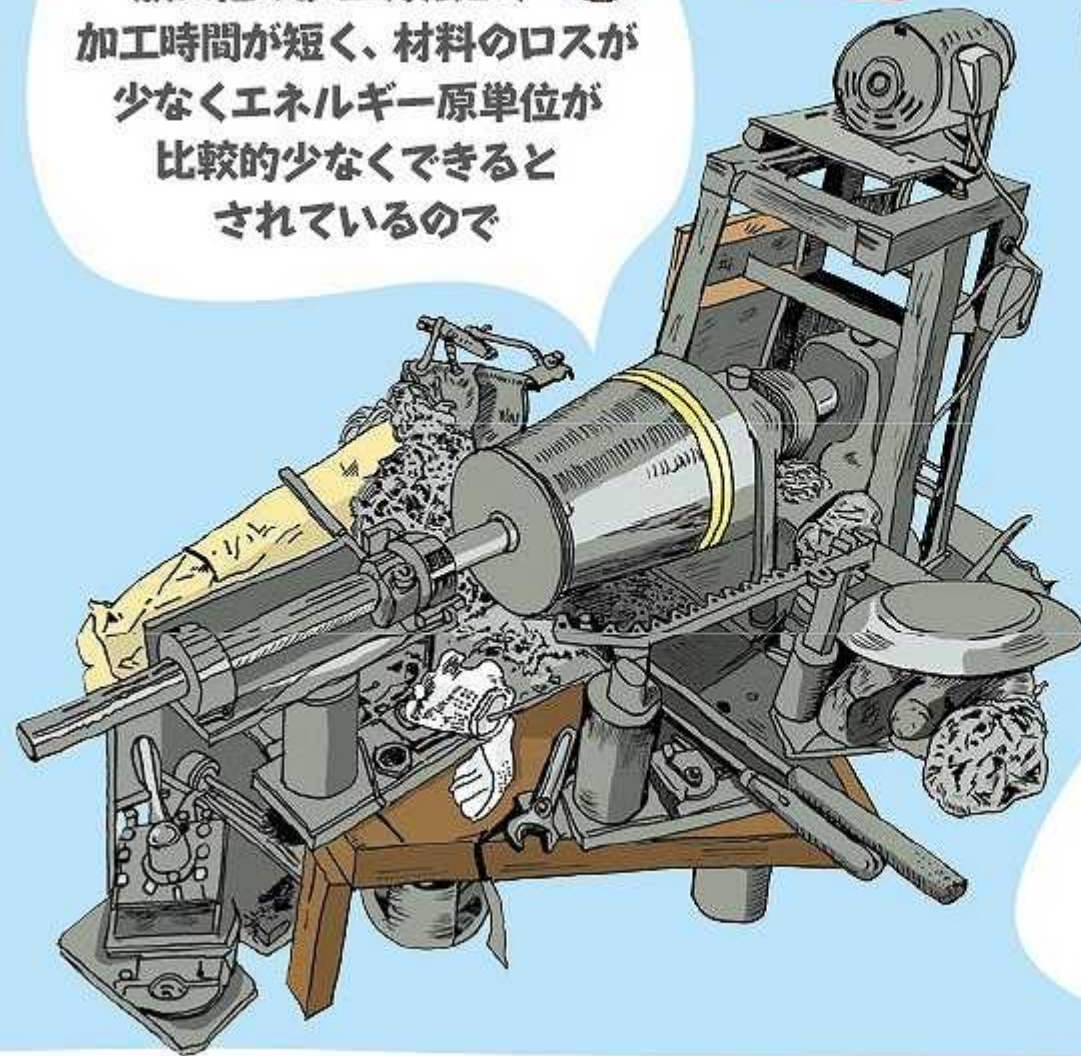


62歳。30年もの職人。

作業は朝8時から  
夜7時ぐらい。  
日曜が休み。

一般に他の加工方法より  
加工時間が短く、材料のロスが  
少なくエネルギー原単位が  
比較的少なくできると  
されているので

待ってたって仕事はけーへん  
人脈をどれだけ作るかが  
これからの職人の勝負に  
かかってくる



小さな  
町工場でも  
技術で大手に  
対抗できます

## 50年続くヘラ絞り専門の職人 多品種、試作品、短納期に応える

昭和45年に先代が創業して以来、ヘラ絞りに特化した板金加工を変わらず続けている。ヘラ絞りは、金属の板を「ろくろ」という機械にセットし、金型とともに回転させながら「ヘラ」という道具を金属に当て曲げたり伸ばしたり加工する技術。現在、吉持製作所は代表と実弟のふたりでヘラ絞りをを行い、慣れた手つきで金属を加工していく。

同社が扱っている金属はアルミ、ステンレス、真鍮など。機械生産ではできない複雑な形、多品種少量生産、試作品、納期が短いなど、ハードルの高い注文ばかりが舞い込んでくる。

景気が良かった時代は、大手電機メーカーが製造する照明用反射板の加工だけで数千個の注文があった。しかし、景気悪化で注文がいきなりゼロ。そこであきらめることなく、吉持さんは55歳でパソコンを習い、自社ホームページを自分で制作。ホームページやブログでの技術力アピールを行ったことで、関西だけでなく全国から注文がくるようになった。「吉持さんところなら、絶対に作ってくれる」と頼りにするお客さんも多い。

昨今、デザイナーと新しい製品開発にも取り組んでいる。手仕事のぬくもりを表現でき、愛着を持って使ってもらえるからだとか。ヘラ絞りは高齢化、廃業するところも多いなか、若い人にもものづくりのおもしろさを伝えたいと活動する。

### 吉持製作所

<http://yosimoti.com/>  
〒544-0005 大阪市生野区中川 2-16-14  
TEL 06-6751-5147 FAX 06-4305-7614

事業内容／金属加工、部品製作(板金加工技術の中のヘラ絞りを専門に行う。照明の反射板、機械部品、照明用シェード、電車部品など、さまざまな製品、機械部品の注文が全国から殺到する)

根元部分は“10”  
端は“3”ぐらいの  
力加減

力のバランスで  
細くしようとすると、大きく伸ばすと力。

職人技!

これからの職人は内にこもらず  
外に出て、人と交わることも必要  
**ITだって知って  
活用せなあかん**

10年やってても、客の要望とやり  
作るのには難しい。職人は一生  
勉強だと思っています。

ヘラは入る前に押し、  
ローラーは入る  
後ろに引けるように  
重さが変わる。

**我が社の  
自慢** 機械生産に比べて安く早くできる  
「ヘラ絞り」のニーズは永遠だ!

小さいものから、大きなものまで  
左右対称の形のものなら  
なんでも作ります。

直径  
25mmと  
ミニ

ヘラを使って金属を加工するより、機械でやったほうが安くて早いのでは?と思う人は多いかも。が、金属で製品を作るには金型が必要で、6,7種類の金型を用意するには金型代だけで数百万円かかることもあるとか。大量生産なら機械のほうが安いですが、多品種少量生産、試作品など、さまざまな形を作っていくオーダーメイド的な注文は、ヘラ絞りのほうが安く、早く作れる。手作業なので、仕様や形の変更も簡単にできるそう。

「ヘラ絞り」  
の  
「ろくろ」  
が  
「ヘラ」  
で  
「絞り」  
する

